

「この絶好の機会を逃すな」——MH17 非難ゲームの政治的動機、戦争に至る危険

July 20, 2014

Russia Today



ウクライナでの MH17 便墜落事件から数時間で、西側メディアに展開されたロシアに対する非難ゲームは、背後の政治的動機を示すにすぎない、とある欧州安全保障協力機構 (OSCE) の前上級アドバイザーは語った。それは、政治家とメディアが見逃すことのできない、モスクワ非難の絶好の機会である。

RT に対して、ベルギー下院の前副議長でもある Lode Vanoost は、証拠集めは「数週から数か月」かかるはずで、その他のすべては「結論へ飛躍するものだ」と話した。これは同時に、この地域で更なるエスカレーションを作り出す可能性がある。

「しかしこれは非常に危険な一触即発的 (volatile) 状況です。すべての戦争はこのようにして、このような原因から始まりました——どんな結論に至るどんな証拠も現れるまえに、憶測し、罪をかぶせることによって。」

RT: 調査が始まりもしないうちから、ある者たちはロシアの仕業と決めつけました。何らかの証拠が現実に出ているのですか？

Lode Vanoost: 私たちが一番初めに明確にしておかねばならないことは、このような悲劇、このような惨事の後では、犠牲者の遺族に対して、独立した筋による徹底した調査を行う義務があるということです。証拠というのは、専門家がその場で取り出したもののことです。「ナショナル・ジオグラフィック」に航空機事故の研究が載っていますが、どんな結論でもそこへ至る前に、数週から数か月かかるものです。いま言われていることはすべて、政治的動機による憶測にすぎません。



RT: どうしてメディアも政治家も、結論に飛びつきたがるのでしょうか？

LV: これは、ロシアと東ウクライナの騒乱に対する非難ゲームを繰り返すための、絶好の機会でしょう。この機会を逃してなるものか、ということです。これが最終的にどうなるかはわかりません。しかしこれは非常に危険な一触即発の状況です。すべての戦争はこのようにして、このような原因で始まりました——どんな証拠も得られる前に、ただ憶測し、罪をかぶせることによって。

RT: この墜落に対する調査が、どれくらい客観的で、政治的にならないか、我々は確信できるでしょうか？

LV: もし客観的な調査が行われるとすれば、もちろんそこには、オランダとマレーシア政府当局が含まれていなければならないでしょう。そしてボーイング社も必要でしょう、アメリカの会社だから。しかし当然、アメリカ政府とロシア政府は、調査の証人として以外は、出席してはならないでしょう。この2国は調査に加わることはできない。

RT: この飛行機が本当に撃ち落とされたものとわかったら、犯人と判明した者にとって、

それはどんな意味をもつでしょうか？

LV: 結論を出せるような機会が、すでに我々に与えられているとする要素は全くありません。だから私は、どんなことが起こるか推測するつもりはありません。この飛行機は撃ち落とされたもので、事故を起こしたのではないことは、かなり確かです。すると犯人は誰なのか？ 前例はありますし、よく似た事件も起こっています。1983年にソ連は、アメリカの（韓国の）航空便を撃ち落としました。その後何が起こったか？ アメリカがイランの航空便を撃ち落としました、もし間違っていなければ1988年に。これらの犯行者がどうかになりましたか？ 同じようなことがまた起こると私は推測します。大変悔しいことですが、本当の犯人は決して罰せられないと思います。今度こそは違うと私は考えたいのですが、それを言うのは時期尚早です。

（ここに表明された言葉、見方、また意見は、もっぱら著者のものであって、必ずしもRTのそれを表すものではない。）